

「龍谷の森」での学生の研究活動

龍谷大学理工学部教授・里山学研究センター副センター長
宮浦 富保

「龍谷の森」とその周辺域では、学生による研究活動はもちろん、教員や里山学研究センター研究員の研究が精力的に行われている。この稿では学生研究に焦点を当て、特に卒業研究と修士研究のタイトルのみ取りまとめて、「龍谷の森」とその周辺での学生の研究活動の記録とする。

2013年度における「龍谷の森」での卒業研究のタイトルを表1に示す。全部で20件の卒業研究が行われた。なお、「龍谷の森」を利用した卒業研究は、環境ソリューション工学科以外の学生も行っている可能性があるが、本報告では実施状況が把握されている環境ソリューション工学科の卒業研究のみをとりまとめた。「龍谷の森」を利用した卒業研究は2006年度から行われており、例年10～20件であり、これまでの合計は127件に達する（表3）。

2013年度にまとめられた「龍谷の森」での修士研究のタイトルを表2に示す。修士課程における研究は複数年にわたって行われるが、ここでは2013年度に論文提出が行われた研究のタイトルを示す。「龍谷の森」を利用した修士研究は2009年度から報告されており、例年2～6件であり、これまでの合計は20件に達する（表3）。

表1. 2013年度に「龍谷の森」とその周辺で行われた卒業研究

研究室	氏名	論文タイトル
菊池	富沢 真美	雑木乾燥剤の耐久性と強度評価
占部	佐湖 俊之	薪ストーブ燃焼ガス中COの触媒による低減化に関する研究
占部	北谷あゆみ	触媒を用いたバイオマスのガス化に関する基礎的研究
市川	池崎 正之	「龍谷の森」におけるオゾン濃度と気象要因の関係
市川	小林 勇介	瀬田丘陵における微小粒子状物質PM2.5の夏期に着目した高濃度解析
市川	橋本 葉	森林キャノピー層における大気汚染物質の濃度分布の風洞実験による検討
市川	藤森 友悠	京阪神地域と瀬田丘陵におけるPM2.5濃度の関連性の検討
宮浦	笹岡 嵩広	ヒノキ人工林に生育するヒサカキ地上部の節足動物
宮浦	西出 彩文	土壌呼吸と土壌水分の関係
宮浦	野口 朝生	ナラ枯れ枯死木の腐朽進行について
宮浦	岩垂 弘	「龍谷の森」コナラ二次林における伐採後の植生
宮浦	八木柚香里	森林土壌中の深さによる細根量及び土壌有機物量の違い
宮浦	辻 冴月	タカノツメにおける内生菌の多様性及び季節変化
横田	奥野 圭一	「龍谷の森」におけるスノキ属の分布
横田	田鹿 諒	ナラ枯れしたコナラに発生する木材腐朽菌の子実体の発生経緯
横田	小海 佑樹	「龍谷の森」におけるネズミ類の定住性と周辺植生の利用
遊磨	浦田 龍一	ヒノキ林における間伐施業に対するアリ群集の反応
遊磨	豊福 晋作	大津市田上の水路におけるゲンジボタルの生息適地
近藤	水野 貴之	葉の窒素含有量と形状的特徴がオカダンゴムシの餌選好に及ぼす影響
近藤	光谷 尚徳	樹木に適用可能な非破壊的葉内窒素含量推定法の開発

表2. 2013年度に「龍谷の森」とその周辺で行われた修士研究

研究室	氏名	論文タイトル
宮浦	清水 裕輔	「龍谷の森」の植生変遷と環境要因
宮浦	石井 将貴	間伐にともなうヒノキ人工林の生産構造の変化
横田	石田 健	野外における担子菌類の子実体形成要因に関する研究
横田	馬場 泰介	F-WGA菌糸染色法を用いた樹上性痲状地衣類の基物への侵入状況に関する研究
遊磨	稲井 拓人	龍谷大学瀬田キャンパスにおけるサウンドスケープ評価
市川	西元 将洋	瀬田丘陵林内におけるオゾンと窒素酸化物濃度の特性評価

表3. 2006年度以降の卒業研究および修士研究の件数

年 度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	累計
卒業研究件数	10	20	16	10	16	18	17	20	127
修士研究件数				2	5	2	5	6	20